

## 2026 年度大学院博士前期課程試験問題(第 2 回)

2025 年 11 月 22 日実施 [環境計画分野(配点 50 点)]

以下 1、2、3 の問いに答えなさい。

(解答用紙は、それぞれの設問に対して、必ず 1 枚ずつ使用すること。裏面まで使ってもよい)

1. 下記の 3 つのタームについてそれぞれ 100 字程度で簡単に説明しなさい。

(配点 15 点)

1) ビオトープ

**基礎概念の理解**：ビオトープの定義と役割を正確に説明できるか確認する。

**景観生態学的視点**：生態系ネットワークや生物多様性との関係を理解しているか評価する。

**応用力の確認**：都市や地域計画への活用をイメージできるかを問う。

2) 里山

**基礎理解の確認**：里山の概念と人と自然の関わりを理解しているかを評価する。

**景観生態学的視点**：里山を半自然的生態系として捉え、その生物多様性や循環機能を説明できるか確認する。

**地域性の理解**：日本の風土や暮らしとの関係を考察できるかを問う。

3) 生物多様性

**基本概念の理解**：生物多様性が「種・遺伝・生態系」の三つの階層から成ることを理解しているか確認する。

**機能と意義の把握**：多様性が生態系の安定や人間社会の持続にどう関わるかを説明できるか評価する。

**保全意識の育成**：その重要性を自分の言葉で表現できるかを問う。

2. 「都市におけるグリーンインフラ導入の意義」について 300 字程度で簡潔に論述しなさい。

**基礎理解の確認**：グリーンインフラの概念と目的を理解しているかを評価する。

**景観生態学的視点**：自然要素を都市基盤として活用し、生態系ネットワークや生物多様性の保全にどう寄与するかを説明できるか確認する。

**多面的な意義の整理**：環境調整、防災、気候変動対策、住民の健康・交流促進などの多面的効果を整理できるかを問う。

**論述力の養成**：限られた字数の中で、要点を簡潔かつ論理的にまとめる表現力を評価する。

(配点 15 点)

3. 日本の風土に合った自然再生、環境計画・設計のあり方について 500 字程度で論述しなさい。

(配点 20 点)

**風土理解の深化**：日本各地の多様な自然条件・気候・文化的背景を踏まえ、「風土性」に根ざした環境デザインの重要性を理解しているかを確認する。

**景観生態学的視点の活用**：生態系ネットワークや地域循環を重視し、人と自然の関係性を再構築する視点を持てているかを評価する。

**実践的思考の確認**：里山再生、在来種の活用、水循環の回復、地域参加など、具体的な再生・計画・設計の方法を挙げて説明できるかを問う。

**統合的表現力**：科学的根拠と文化的・社会的視点を統合し、持続可能な地域環境の将来像を論理的に表現する力を評価する。